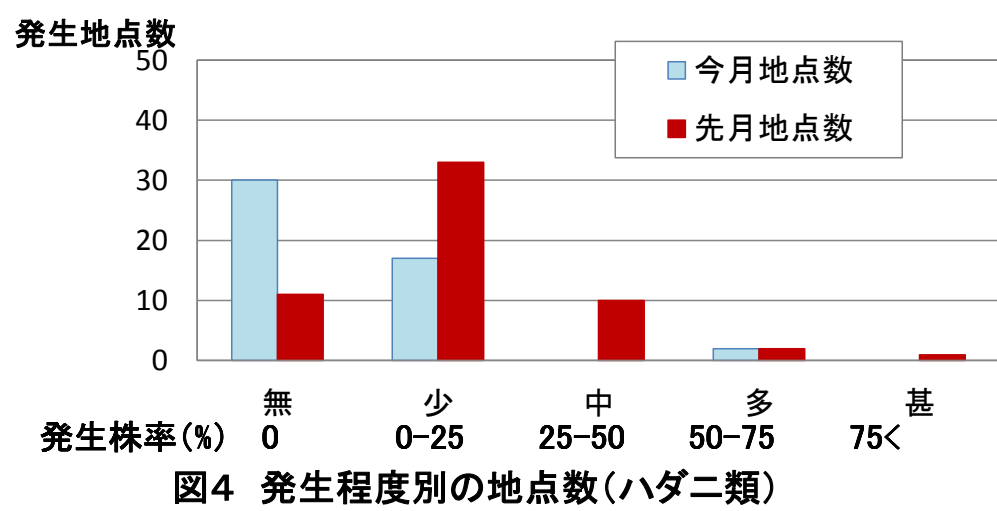
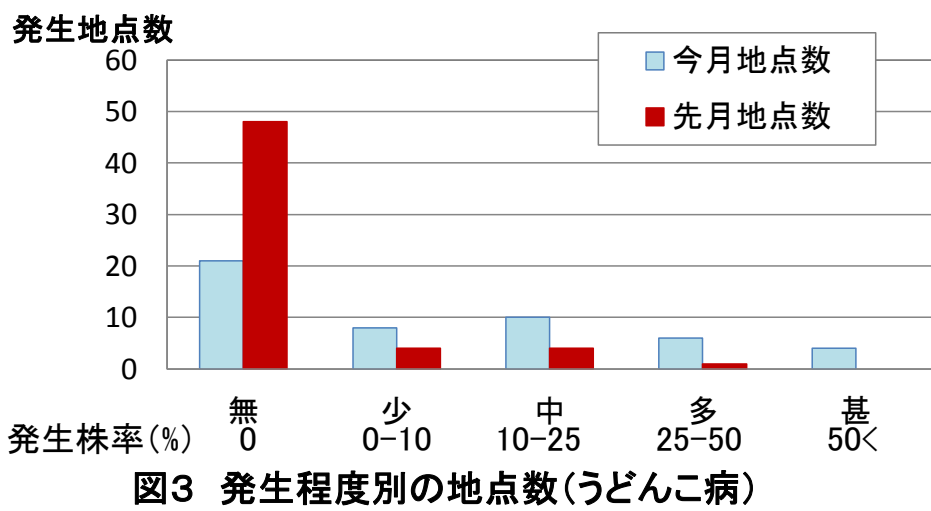
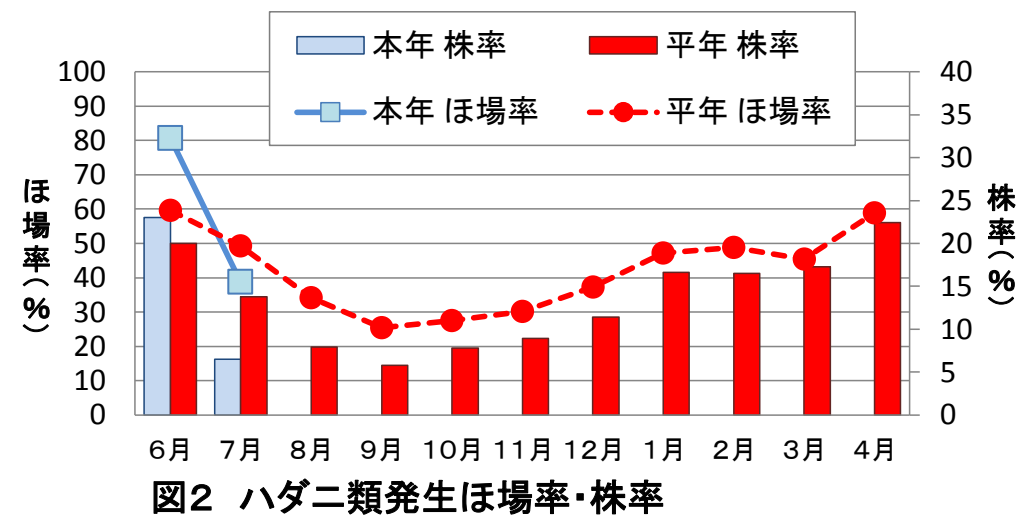
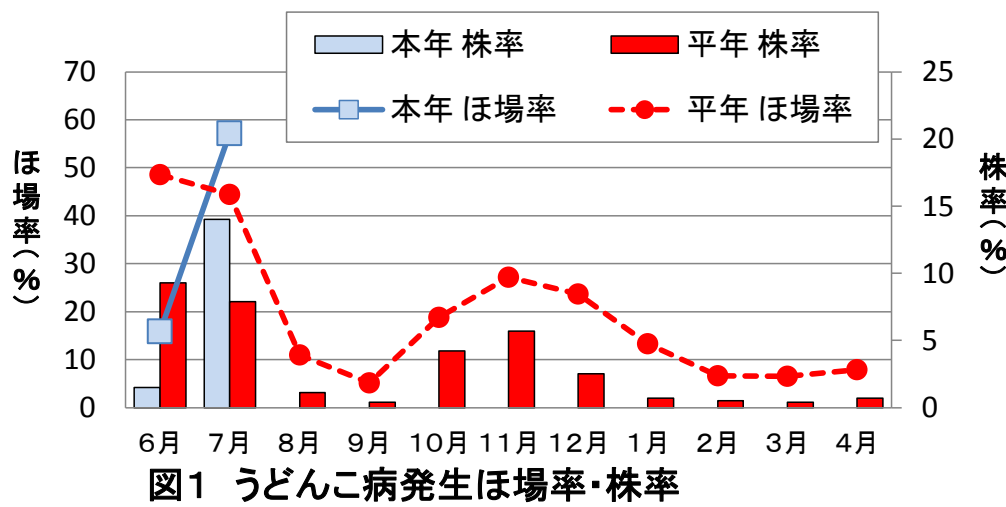


いちご病害虫情報第2号(7月)

平成27年7月17日
栃木県農業環境指導センター

単位: %

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	ハスモンヨトウ幼虫	アザミウマ類	備考
ほ場率 (%)	発生ほ場数	0	0	28	0	7	19	13	0	2	総調査ほ場数: 49か所 総調査株数: 1,225株 (調査株数 25株)
	本年平均値	0.0	0.0	57.1	0.0	14.3	38.8	26.5	0.0	4.1	
	平年値	3.8	1.2	44.4	0.5	17.2	49.2	40.2	0.6	5.4	
	(本年平均値/平年値) × 100	0.0	0.0	128.6	0.0	83.1	78.9	65.9	0.0	75.9	
株率 (%)	発生株数	0	0	172	0	30	80	20	0	0	○今月の病害虫発生状況○ ・うどんこ病、ハダニ類の発生はともに平年並ですが、一部のほ場で発生が多く見られます。 ・アブラムシ類、コナジラミ類の発生は平年並です。
	本年平均値	0.0	0.0	14.0	0.0	2.4	6.5	1.6	0.0	0.0	
	平年値	0.1	0.0	7.9	0.0	2.2	13.8	6.4	0.0	0.3	
	(本年平均値/平年値) × 100	0.0	-	177.2	-	109.1	47.1	25.0	-	0.0	
概 評		少	少	平年並	少	平年並	平年並	平年並	少	やや少	



○うどんこ病対策

- ・軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な肥培管理やかん水を行う。
- ・予防を主体にベルコートフロアブル、アフェットフロアブル等を散布する。
- ・高温時には菌の活動が抑えられ病徴が見えにくくなるが、菌は残存しているので注意する。

○ハダニ対策

- ・雑草はハダニ類の発生源となるため、除草を徹底する。
- ・苗による本ぼへの持ち込みを防ぐため、育苗での防除を適正に行う。
- ・育苗中は気門封鎖剤やトクチオン乳剤等を活用し、本ぼ定植後に使用可能な有効薬剤を温存する。なお、トクチオン乳剤の使用時期は「収穫75日前まで」なので散布時期に注意する。
- * 当センターHPに「園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果」を掲載中。



写真 うどんこ病

○今月の技術情報(技術指導班)○(7月)

- ・今年は今気温、降水量ともに平年並でしたが、例年になく炭疽病の発生が少なくなりました。特に、採苗時の気温が低めに経過したため、比較的活着は順調でした。
- 梅雨明けすると高温多湿状態となり、炭疽病が発生しやすい環境になると予想されますので、苗床での発生、被害拡大がないよう、ほ場観察と発生予察情報を参考に防除意識を高めましょう。
- ・一方、うどんこ病の発生は平年並ですが、気温が低下してくる秋以降の再発をなくするため、夏期にも予防を継続することがポイントです。
- ・害虫では、ハダニ類、アブラムシ類の発生が平年並となっています。育苗期間中に徹底した防除を行い、本ぼに持ち込まないようにしましょう。
- また、親株床のみでなく、ほ場周辺の環境整備を行い、密度を減らすための防除も行いましょう。
- ・なお、育苗時から天敵を導入されている方が多くなってきましたので、薬剤散布については、天敵への影響の有無についてしっかり確認し、最大限の効果を発揮できるよう注意しましょう。